

奥波見通信 2001-2002

京都府立大学 人間環境学部 環境デザイン学科 生活デザイン専攻
上田 麻紀子

私たち生活デザイン専攻の学生は、1998年から「野に出て生活デザインを学ぶ」という目的で生活デザイン演習を行っています。地球デザインスクールのセミナーハウスで、毎年20数名で自炊をしながら寝泊まりし、宮津市奥波見のみなさんのご協力を得て調査を行っています。私が奥波見に初めて行ったのは2001年でした。奥波見の第一印象は、とても緑が豊かで、時間の流れをゆっくりと感じる場所、というものでした。

奥波見には現在14世帯の方が暮らしておられます。2001年の演習は、1)水源調査や人と水との関わりについて調べる水マップ班、2)奥波見のみなさんの特技や知識を聞く人材マップ班、3)奥波見周辺の動物の調査を行う動物マップ班、4)蔵などの建物の調査を行う建築マップ班、5)奥波見の宝物を発見し調査する

お宝マップ班、の5つの班に分かれて調査を行いました。

調査は主に住民の方からの聞き取り調査です。農作業中にお話を聞いたり、お宅におじゃましてお話を聞くことで私たちが知らないことをたくさん知ることができました。

水マップ班は、集落の水源、清水と人々の信仰、洗濯岩、水車小屋のあと、縦井戸、横井戸、防火用水などを調べ、水源と水にまつわる道具と人との関わりを調べました。



調査結果はマップにまとめました。

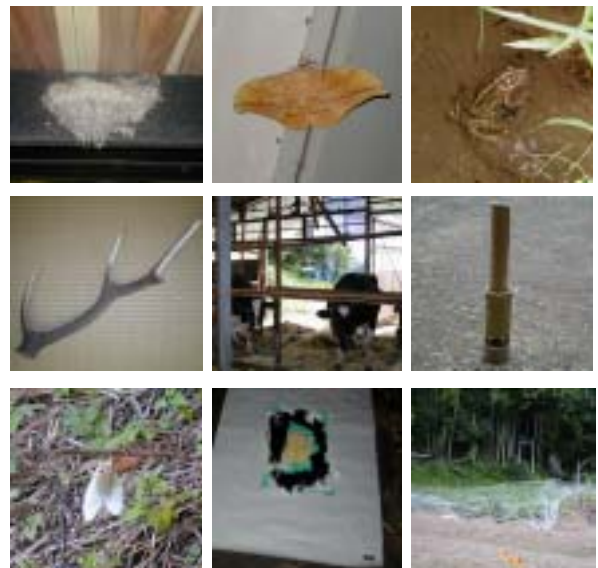


人材マップ班は、特別な技術というよりは、住んでいる方たちが長年の経験で身につけてこられた知識や技術を教えてもらいました。

奥波見の人材マップでは、「働き者」や「話し上手」、「川柳好き」なども大切な要素で、みなさん全員が地域にとって大切な人材であることがわかりました。



柿渋染めは実際に班の人が体験しました。穴のあいたざるなどに和紙を貼り、柿渋をぬることでまた使えるようになります。その補修を何回も繰り返すことでざるはどんどん強くなり、長持ちします。写真の柿渋染めのざるは40年も前から使っているもので、物を簡単に見捨てないで、大切にすることや、時間の流れを大きな気持ちで受け入れることの大切さを感じました。



動物マップ班は、奥波見でどんな動物が見られるかを調べました。

立派なシカの角をひろった、ネズミを捕るための道具を発明した、などの人と動物にまつわる話をたくさん聞くことができました。夜中、山に紙を敷き、その真ん中にエサをおいて周りに墨汁をまいた仕掛けを置いておくと、次の日タヌキの足跡が紙の上にたくさんついていました。

また、はじめは奥波見の自然の豊かさを調べる目的だった動物調査でしたが、サルやクマ

奥波見動物調査一覧

エピソード	生物種	分類	時間	場所	報告者
牛舎に出現 飼料荒らし	タヌキ	ほ乳類	近年	品川さんの牛舎	品川泰志
4～5年前からサギの仲間が増加	サギ	鳥類	近年	田	山口眞
カッコウの声を聞く	カッコウ	鳥類	随時	山	田村百合子
フクロウがいる	フクロウ	鳥類	随時	集落近隣	田村百合子
オオスズメバチ=アカネブリ	オオスズメバチ	昆虫類	-	-	田村百合子
鹿が増えた	ニホンジカ	ほ乳類	近年	尾根づたい	田村嘉久芳
山奥の湧き水にカジカガエルがいる	カジカガエル	両生類	随時	山奥の沢	山口眞
鹿の角、足跡	ニホンジカ	ほ乳類	近年	尾根づたい	田村嘉久芳
モグラ=ムクロ	モグラsp	ほ乳類	-	-	田村百合子
ツバメを守る	ツバメ	鳥類	随時	軒先	田村百合子
虫おくり	ヌカ虫(イネの害虫)	昆虫類	80年前	田	山本鉄治
コウモリの巣	コウモリsp	ほ乳類	2001調査中	横穴	山口眞
奥波見ではハサミ獵が主流		ほ乳類	-	-	山本鉄治
ホタルの減少	ホタルsp	昆虫類	近年	水場 畑	田村百合子
15～20年前からクマ出没	ツキノワグマ	ほ乳類	15～20年前より	畑 など	田村嘉久芳
キジ、ヤマドリを飼育	キジ、ヤマドリ	鳥類	約40年前	-	田村嘉久芳
アオダイショウ=ヤシキマワリ	アオダイショウ	ほ虫類	-	-	田村百合子
栗の木にいる幼虫(カミキリムシ?)を食べた	カミキリムシ?	昆虫類	約40年前	栗の木	田村百合子
メダカが減少	メダカ	魚類	近年	水場	田村百合子
川魚はあまり見ないし食べない		魚類	随時	波見川	田村百合子
ヤマブドウ=グンダ	ヤマブドウ	植物	-	山	田村百合子
ノネズミがモグラのトンネルの再利用	ノネズミ	ほ乳類	近年	畑まわり	品川泰志
犬に襲われタヌキ寝入りをする(死んだふり)のを見た	タヌキ	ほ乳類	近年	-	田村嘉久芳
ヤマノイモの種芋を掘り返す	イノシシ	ほ乳類	近年	畑	品川泰志
「サルは殺すのに抵抗がある(ヒトに似ているから)」 獺師談	サル	ほ乳類	?	-	山本鉄治
笹の葉を集めて作った寝床を見た	イノシシ	ほ乳類	近年		黄前ひさえ
野生のミツバチの蜜をとる	ミツバチ	昆虫類	近年(随時)	山	田村百合子
アナグマ=ダイコダヌキ	アナグマ	ほ乳類	-	-	田村百合子
テンが流しにやってきたので殴ったら気絶した	テン	ほ乳類	?	台所	山本鉄治
冬場イタチが台所に入ってきた	イタチ	ほ乳類	?	台所	黄前ひさえ
キジが畑にまいた種芋をつつつく	キジ	鳥類	近年	畑	品川泰志
モグラが農作物の横を通ると形が変わって損害がでる	モグラ	ほ乳類	随時	畑	品川泰志
昔あった隠居屋敷には屋敷ヘビ(ぬし)が住みついていた	ヘビ	ほ虫類	?	家屋	黄前ひさえ
ホトトギスの声を聞いた	ホトトギス	鳥類	2001調査中	山のそば	谷・璃梨香
トノサマガエルをみた	トノサマガエル	両生類	2001調査中	水場	谷・璃梨香
セミの羽化をみた	アブラゼミ	昆虫類	2001調査中	道ばた	谷・璃梨香
ヤマカガシをみた	ヤマカガシ	ほ虫類	2001調査中	品川さんの畑の水場	谷・璃梨香

が山から下りてきているというお話をきいて、
 ここでも自然のバランスが崩れ始めていることがわかりました。
 調査結果はエピソード、生物種、分類、時間、場所、報告者に分けてリストにまとめました。

建築マップ班は、養蚕をしていたころの名残の
 高い天井や、曲がった木の形を生かした構造体
 など、建築物を細かく観察しました。特に、奥
 波見に何軒か残る蔵について調べていきました。
 蔵は年を重ねて壁がはがれたりしていますが、
 つくりはとてもしっかりしており、奥波見らしい
 風景をつくり出していました。



お宝班は、奥波見の家々にある「宝物」を探しました。



箱膳は箱を開けて中の食器を取り出し、ふたをひっくり返してそのままお膳として使えるもので、お膳自体も非常に貴重なものなのですが、それよりも、箱から食器をだしてまた箱に戻す、つまり自分のものを管理し、片づけるまでに責任を持つという日本の「片づける文化」を見事に表している、このような道具を使い続けていることが貴重なのだと思います。

また、味噌づくりは、お嫁にいった娘さんが豆を持って帰ってきて、一緒に味噌をつくり、味噌を持って嫁ぎ先にもどって味噌を食べる、というように、昔からつくられてきた味噌が家族をつなぐ存在であることを知りました。

箱膳の下の写真に写っているおばあさんは、90歳をこえて腰が曲がっておられるのですが、この背板を背負うとぴんと背筋を伸ばして畑へ向かわれます。背板を背負うだけで背中まっすぐにはなりますが、背負うことでおばあさんの気持ちからまっすぐになるように思えました。



このように調べた結果は奥波見のみなさんに集まっていたいただき、聞いてもらいました。そのあと奥波見のお母さんたちが作ってくれた郷土料理をみんなで食べながら交流会をしました。



2002年の演習では、山の奥にある滝へ連れていってもらいました。山に人が入らず、荒れているため道をつくりながら進んでいきます。1時間ほど歩くと滝につきます。案内してくれた方から、昔、農作業の合間に飲んでいたという、くまざさをもんで水をいれたお茶や、野生のわさび、ゆりねなどを教えてもらい、その場でお茶やわさびを味見したりもしました。

また、奥波見で見たもの、聞いたものをモチーフとして集め、手拭いをつくることで形にしました。できた手拭いは全世帯に配りました。手拭いに使ったモチーフは、奥波見でよくとれるさんどまめ(うずらまめ)、峠から見た奥波見の風景、農作業の風景、波見川に昔いたというモクズガニなどです。



奥波見で使われている方言も入れました。方言は普段何気なく使っているうちに伝わりますが、使わなければなくなるものなので、奥波見の貴重な財産のひとつといえると思います。

奥波見の方言

あだける(落ちる)
 おいでなあ、よう来たなあ(いらっしゃい)
 おたてー(汚い) おんなる(いる)
 いぬる(来る) がっしゃー(すごく)
 しゃっても(かならず)
 ごっつおー(ごちそう) えらい(疲れる)
 おどろ(小枝) めげる(割れる)
 ひいさ(全然) あかねぶり(はち)
 もくろ(もぐら)
 せーでやーて(早く、精だして)
 ゆり(いろり) へでも(それでも)
 はこがめ(かみなり)
 うらあ(私) ほてっちょ(横) そら(上)
 うやくたろう(どうしようもない)
 はやす(切る) びやーた(薪)

私は、地域の財産は使い続けることで守られ、次の時代へと伝わるものであり、無理に変わろうとせず、ゆっくりと生活を楽しむことは価値のあることだと感じました。

そうした「続ける」ことの価値は、そこに住んでいる人たちからみれば当たり前すぎて気づいていないことが多いと思います。

そこで、それらの価値を再発見し、住んでいる人たちに伝えることが私たちにできることなのではないでしょうか。

最後に、いつも私たちを暖かく見守ってくださり、根気よく付き合ってくださいる奥波見のみなさんに感謝します。ありがとうございました。